

厚生労働省 平成 29 年度障害者総合福祉推進事業 指定障害福祉サービス事業者等への指導監査の在り方に関する調査研究報告書. 平成 30 年 3 月 一般社団法人 日本発達障害連盟, p.113-116(一部改変). v6  
[http://www.jlidd.jp/wp-content/uploads/H29\\_mhlw\\_shidoukansha.pdf](http://www.jlidd.jp/wp-content/uploads/H29_mhlw_shidoukansha.pdf)

## 付録 1：被害が疑われる場合の面接手続き

NICHHD プロトコルにもとづく司法面接の最小限の手続き(2010.10-2019.10)《被害》障がい・高齢者・児童生徒  
 立命館大学総合心理学部 仲真紀子

[録画開始]

### 【導入】

1. 挨拶・説明：今日は \_\_\_\_年\_\_月\_\_日で、時刻は\_\_時\_\_分です。  
 私は ○○○○さん(被面接者氏名)に、\_\_\_\_\_(場所)で面接をします。

《被面接者入室》

こんにちは。今日はお話に来てくれて(くださり)、どうもありがとうございます(ございます)。

《席に案内し、座ってもらう》

私の名前は \_\_\_\_\_ です。私の仕事は何があったかお話を聞くことです。

《筆記役がいれば》こちらは \_\_\_\_\_ さん(筆記役)です。お話をすることをノートに書いてもらいます。

《通訳・仲介者がいれば》こちらは \_\_\_\_\_ さん(通訳、仲介者)です。○○さんの言葉で話してもらいます。

この会話は録画(録音)します(機材説明)。私がお話を忘れないように、後で見ればわかるようにするためです。

どうすればよいか考えるために、他の人が見ることもあります。

別の部屋で、私が○○さんからちゃんと聞いているか、一緒に仕事をしている人が見てくれています。

あとで、私がちゃんと聞いているか、相談に行くこともあるかもしれません。

2. 約束事：面接を始める前にお約束があります。(※は練習課題)

①本当：今日は、本当のことだけを話すのがとても大切です。本当にあったことだけを話してください。

\*では練習してみましょう。《+ お話を聴くときはいつも行っているものです。協力をお願いします。》

本当でない：「私の靴は赤い」と言ったら、これは本当ですか、本当ではありませんか。(本当は黒)

[正しく「本当でない」「違う」と言ったならば] そうですね。私の靴は黒いので本当ではありませんね。

本当：では、○○さんが今、座っているといたら、これは本当ですか、本当ではありませんか。(本当に座っている)

[正しく「本当」「そう」などと言ったならば] そうですね。○○さんは座っているのですよね。

○○さんが本当のことと本当でないことの区別がよくわかっている、ということがわかりました。今日は、本当にあったことだけを話してください。

②わからない：もしも私の質問の意味がわからなかったら、「わからない」と言ってください。

③知らない：もしも私の質問の答えを知らなかったら、「知らない」と言ってください。

\*では練習してみましょう。

「私が飼っている犬の名前は何ですか」と聞いたら、○○さんは何と答えますか。

[正しく「知らない」と言ったら]

そうですね。  
 知らないときは、今のように「知らない」と言ってください。

[「ボチ」等と推測を言ったら]

○○さんは、私の家に来たことがないから、私の犬の名前は知らないでしょう。  
 知らない時は知らないと言ってください。

④間違い：もしも私が間違ったことを言ったら、「間違ってるよ」と言ってください。

\*では練習してみましょう。

私が○○さんは(異なる年齢、名前、等)ですと言ったら、○○さんは何と言いますか。

[正しく「ううん」「間違ってる」などと言ったならば] そうですね。私が間違ったら、「間違ってる」と言うのがわかりましたね。私が間違ったら、今のように「間違ってる」(または「違ってる」など)と教えてください。

⑤その場にはいない：私はその場にはいなかったのですが、何があったかわかりません。どんなことでも、あったことを全部話してください。

3. ラポール：〇〇さんのことをもっと知りたいので聞きますね。〇〇さんは何をするのが(お)好きですか。  
[話してもらったならば] はい、よくわかりました。どうもありがとうございます(ございます)。このようにたくさん話してくれるとよくわかります。今のようにたくさんお話してください。

4. 出来事を思い出して話す練習：それでは前のことを思い出してお話する練習をしましょう。  
今日あったことを話してください。今日、朝起きてからここに来るまでにあったことを最初から最後まで全部話してください。  
[話してもらったならば] はい、よくわかりました。どうもありがとうございます(ございます)。このようにたくさん話してくれるとよくわかります。今のようにたくさんお話してください。

### 【本題】

5. 本題への移行：それでは、こんどは〇〇さんがどうしてここ(保護されている機関、面接を行う場所)にいるか(来たか)話してください。/(あるいは)今日は何をお話しにきましたか。

[出てこなければ、次のように言う]

① 〇〇さんが / \_\_\_\_ (いつ), / \_\_\_\_ (場所) で, / \_\_\_\_ (通告した人) に, / 話をしたと聞いています。何があったか、どんなことでも、最初から最後まで全部話してください。

② 〇〇さんの \_\_\_\_\_ (体の場所) に ケガ (傷, あざ, 跡等) があります (あると聞きました)。そのケガ (傷, あざ, 跡等) ができたときのことを、どんなことでも、最初から最後まで全部話してください。

6. 出来事の分割《「～するから」など意味記憶的に語られたときのみ》：そういうことがあったのは1回だけですか、それとも1回よりも多いですか。

[「他にもあった」「いつも」「たくさん」などと言ったならば] それでは一番よく覚えているとき(または、一番最初にあったとき、一番最後にあったとき)のことを話してください。

7. 自由報告：オープン質問

- ① 誘いかけ：何があったか全部話してください。
- ② 時間分割：A してから B までのことを、全部話してください。
- ③ 手がかり質問：さっき A と言っていたけれど、そのことを(について)もっと話してください。
- ④ それから質問：それから? そして? あとは?
- ⑤ エコーイング：(被面接者の言葉を繰り返すのみ)
- ⑥ 返事：ふん、ふん

8. ブレイク

① たくさん話してくれて(くださり)、どうもありがとうございます(ございます)。これから、私がちゃんとお話を聞いているかどうか、別の部屋で見ててくれる人に確認してきます。待っててもらっていいですか。

《面接者退室→観察室で相談→面接室に戻る》

② 待っててくれて(くださり)、どうもありがとうございます(ございます)。それではあといくつか質問します。

9. 補充：オープン質問、WH質問・クローズド質問+オープン質問《応答はオープン質問で補う》

10. 確認：(誘導・暗示となる可能性があるため、必要な場合のみ面接の終盤で行う。応答はオープン質問で補う)

- ① 会話(脅し、脅迫、甘言等)：その人は何か言いましたか。
- ② 目撃者・被害者・加害者等：他に誰かいましたか。
- ③ 開示：このことを知っている人は他に誰かいますか。/その人はどうしてこのことを知っていますか。

④ 疑い（主語を含めない）：[疑われる事柄]されたことはありますか。／ 誰かが[疑われる事柄]しましたか。《「はい」ならば「誰が～した？」と主語を求め、「では[主語]が～したときのことを、最初から最後まで、どんなことでも全部はなしてください」と自由報告を求める》

**【終結】**

11. たくさんのことを話してくれました。助けてくれて（くださり）、どうもありがとう（ございます）。

① 知っておいたほうがよいこと：他に、私が知っておいたほうがよいことは、ありますか。

② 話しておきたいこと：他に、〇〇さんが私に話しておきたいことは、ありますか。

③ 質問：〇〇さんからは、何か質問はありますか。

④ 連絡先：また何か話したくなったら、ここに連絡してください。

《被面接者が希望や質問を述べたならば「どうしてそう思いますか」「〇〇さんはどうなるとよいと思いますか」などと意向を尋ねる。そして「私は一人で答える/決めることはできませんが、〇〇さんの考えを話してもらったので、それを考えにいられて、一番よい方法を考えていきたいと思います」などと述べる。》

《 被面接者退出 》

12. (配置図や身体の図などがあれば、電源を切る前に、カメラに示す)

今は\_\_時\_\_分です。これで面接を終わります。

[録画終了]

---

本手続きはLamb, M. E., Orbach, Y., Hershkowitz, I., Esplin, P. W., & Horowitz, D. (2007) A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of investigative interviews with children: A review of research using the NICHD Investigative Interview Protocol. *Child Abuse and Neglect*, 31, 1201-1231.にもとづいている。

プロトコル本体は <http://nichdprotocol.com/the-nichd-protocol/> よりダウンロードできる

## 付録2：目撃が疑われる場合の面接手続き

NICHDプロトコルにもとづく司法面接の最小限の手続き(2010.10-2019.10)《目撃》障がい・高齢者・児童生徒  
立命館大学総合心理学部 仲真紀子

[録画開始]

《 視力、聴覚、その他目撃に関連する能力を確認しておきます 》

### 【導入】

1. 挨拶・説明：今日は \_\_\_\_年\_\_月\_\_日で、時刻は\_\_時\_\_分です。

私は ○○○○さん（被面接者氏名）に、 \_\_\_\_\_（場所）で面接をします。

《 被面接者入室 》

こんにちは。今日はお話に来てくれて（くださり）、どうもありがとう（ございます）。

《 席に案内し、座ってもらう 》

私の名前は \_\_\_\_\_ です。私の仕事は何があったかお話を聞くことです。

《 筆記役がいれば 》こちらは \_\_\_\_さん（筆記役）です。お話をすることをノートに書いてもらいます。

《 通訳・仲介者がいれば 》こちらは \_\_\_\_さん（通訳、仲介者）です。○○さんの言葉で話してもらいます。

この会話は録画（録音）します（機材説明）。私がお話を忘れないように、後で見ればわかるようにするためです。

どうすればよいか考えるために、他の人が見ることもあります。

別の部屋で、私が○○さんからちゃんと聞いているか、一緒に仕事をしている人が見てくれています。

あとで、私がちゃんと聞いているか、相談に行くこともあるかもしれません。

2. 約束事：面接を始める前にお約束があります。（\*は練習課題）

①本当：今日は、本当のことだけを話すのがとても大切です。本当にあったことだけを話してください。

本当でない：「私の靴は赤い」と言ったら、これは本当ですか、本当ではありませんか。（本当は黒）

[正しく「本当でない」「違う」と言ったならば] そうですね。私の靴は黒いので本当ではありませんね。

本当：では、○○さんが今、座っているとよったら、これは本当ですか、本当ではありませんか。（本当に座っている）

[正しく「本当」「そう」などと言ったならば] そうですね。○○さんは座っているのが本当ですね。

○○さんが本当のことと本当でないことの区別がよくわかっている、ということがわかりました。今日は、本当にあったことだけを話してください。

②わからない：もしも私の質問の意味がわからなかったら、「わからない」と言ってください。

③知らない：もしも私の質問の答えを知らなかったら、「知らない」と言ってください。

\*では練習してみましょう。

「私が飼っている犬の名前は何か」と聞いたら、○○さんは何と答えますか。

[ 正しく「知らない」と言ったら ]	[ 「ボチ」等と推測を言ったら ]
そうですね。 知らないときは、今のように「知らない」と言ってください。	○○さんは、私の家に来たことがないから、私の犬の名前は知らないでしょう。 知らない時は知らないと言ってください。

④間違い：もしも私が間違ったことを言ったら、「間違ってるよ」と言ってください。

\*では練習してみましょう。

私が○○さんは（異なる年齢、名前、等）ですねと言ったら、○○さんは何と言いますか。

[正しく「ううん」「間違ってる」などと言ったならば] そうですね。私が間違ったら、「間違ってる」と言うのがわかりましたね。私が間違ったら、今のように「間違ってる」（または「違ってると」）と教えてください。

⑤その場にはいない：私はその場にはいなかったもので、何があったかわかりません。どんなことでも、あったことを全部話してください。

3. ラポール：〇〇さんのことをもっと知りたいので聞きますね。〇〇さんは何をするのが(お)好きですか。  
 [話してもらったならば] はい、よくわかりました。どうもありがとうございます(ございます)。このようにたくさん話してくれるとよくわかります。今のようにたくさんお話してください。
4. 出来事を思い出して話す練習：それでは前のことを思い出してお話する練習をしましょう。  
 今日あったことを話してください。今日、朝起きてからここに来るまでにあったことを最初から最後まで全部話してください。  
 [話してもらったならば] はい、よくわかりました。どうもありがとうございます(ございます)。このようにたくさん話してくれるとよくわかります。今のようにたくさんお話してください。

**【本題】**

5. 本題への移行：それでは、こんどは〇〇さんがどうしてここ(保護されている機関、面接を行う場所)にいるか(来たか)話してください。/(あるいは)今日は何をお話しに来ましたか。  
 [出てこなければ、次のように言う]
- ① 〇〇さんが / \_\_\_\_\_ (いつ) , / \_\_\_\_\_ (場所) で, / \_\_\_\_\_ (目撃者が最初に話した人) に, / 話をしたと聞いています。何があったか話してください。
- ② 〇〇さんが(被害者)のことで、何か話したと聞きました。何があったか、どんなことでも、最初から最後まで、全部話してください。
- ③ (被害者)の \_\_\_\_\_ (体の場所)にケガ(傷、あざ、跡等)があります(あると聞きました)。知っていることがあれば、どんなことでも、最初から最後まで全部話してください。
6. 出来事の分割《「～するから」など意味記憶的に語られたときのみ》：そういうことがあったのは1回だけですか、それとも1回よりも多いですか。  
 [「他にもあった」「いつも」「たくさん」などと言ったならば] それでは一番よく覚えているとき(または、一番最初にあったとき、一番最後にあったとき)のことを話してください。
7. 自由報告：オープン質問
- ① 誘いかけ：何があったか全部話してください。
- ② 時間分割：AしてからBまでのことを、全部話してください。
- ③ 手がかり質問：さっきAと書いていたけれど、そのことを(について)もっと話してください。
- ④ それから質問：それから?そして?あとは?
- ⑤ エコーイング：(被面接者の言葉を繰り返すのみ)
- ⑥ 返事：ふん、ふん
8. ブレイク
- ① たくさん話してくれて(くださり)、どうもありがとうございます(ございます)。これから、私がちゃんとお話を聞いているかどうか、別の部屋で見てくれる人に確認してきます。待っててもらっていいですか。  
 《面接者退室→観察室で相談→面接室に戻る》
- ② 待っててくれて(くださり)、どうもありがとうございます(ございます)。それではあといくつか質問します。
9. 補充：オープン質問、WH質問・クローズド質問+オープン質問《応答はオープン質問で補う》
10. 確認：(誘導・暗示となる可能性があるので、必要な場合のみ面接の終盤で行う。応答はオープン質問で補う)
- ① 会話(脅し、脅迫、甘言、抵抗、同意等)：〇〇さんは何か言いましたか。(被害者)は何か言いましたか。
- ② 目撃者・被害者・加害者等：他に誰かいましたか。
- ③ 目撃状況1：そのとき、〇〇さんは、どこにいましたか。
- ④ 目撃状況2：その前(出来事の前)、〇〇さんは、何をしていましたか。
- ⑤ 目撃状況3：その後(出来事後)、〇〇さんは、何をしましたか。
- ⑥ 開示：このことを知っている人は他に誰かいますか。/その人はどうしてこのことを知っていますか。

⑦ 疑い（主語を含めない）：[被害者は][疑われる事柄]されましたか。／誰かが[被害者に][疑われる事柄]しましたか。《「はい」ならば「誰が～した？」と主語を求め、「では[主語]が～したときのことを、最初から最後まで、どんなことでも全部はなしてください」と自由報告を求める》

**【終結】**

11. たくさんのことを話してくれました。助けてくれて（くださり）、どうもありがとう（ございます）。

① 知っておいたほうがよいこと：他に、私が知っておいたほうがよいことは、ありますか。

② 話しておきたいこと：他に、〇〇さんが私に話しておきたいことは、ありますか。

③ 質問：〇〇さんからは、何か質問はありますか。

④ 連絡先：また何か話したくなったら、ここに連絡してください。

《被面接者が希望や質問を述べたならば「どうしてそう思いますか」「〇〇さんはどうなるとよいと思いますか」などと意向を尋ねる。そして「私は一人で答える/決めることはできませんが、〇〇さんの考えを話してもらったので、それを考えにいられて、一番よい方法を考えていきたいと思います」などと述べる。》

**《 被面接者退出 》**

12. (配置図や身体図などがあれば、電源を切る前に、カメラに示す)

今は\_\_時\_\_分です。これで面接を終わります。

[録画終了]

---

本手続きはLamb, M. E., Orbach, Y., Hershkowitz, I., Esplin, P. W., & Horowitz, D. (2007) A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of investigative interviews with children: A review of research using the NICHD Investigative Interview Protocol. *Child Abuse and Neglect*, 31, 1201-1231.にもとづいている。  
プロトコル本体は <http://nichdprotocol.com/the-nichd-protocol/> よりダウンロードできる

### 付録3：加害・違反が疑われる場合の面接手続き

NICHDプロトコルにもとづく司法面接の最小限の手続き(2010.10-2019.10)《加害・違反》障がい・高齢者・児童生徒  
立命館大学総合心理学部 仲真紀子

[録画開始]

#### 【導入】

1. 挨拶・説明：今日は \_\_\_\_年\_\_月\_\_日で、時刻は\_\_時\_\_分です。

私は ○○○○さん（被面接者氏名）に、 \_\_\_\_\_（場所）で面接をします。

#### 《被面接者入室》

- こんにちは。今日はお話に来てくれて（くださり）、どうもありがとう（ございます）。  
《 席に案内し、座ってもらう 》
- 私の名前は \_\_\_\_\_ です。私の仕事は何があったかお話を聞くことです。  
《 同席者について、氏名と役割を紹介する。例えば以下のように行う 》
- こちらは \_\_\_\_さん（立会人）です。私の質問がちゃんと○○さんに伝わるか、○○さんの言いたいことが私に伝わるか、話を聞いてもらいます。
- 今日はお母さん（お父さん、第二の立会人）にも来てもらいました。私の言ったことが○○さんにちゃんと伝わるか、○○さんの言いたいことが私に伝わるか、話を聞いてもらいます。
- この会話は録画（録音）します（機材説明）。私がお話を忘れないように、後で見ればわかるようにするためです。
- 別の部屋で、私が○○さんからちゃんと聞いているか、一緒に仕事をしている人が見てくれています。あとで、私がちゃんと聞いているか、相談に行くこともあるかもしれません。

2. 面接の目的：（被疑事実の一部）のことを聞きました。今日は、このことについてお話を聞きます。

3. 話す人の権利：

- 面接は（ ）分くらいかかります。もしも疲れたら「休憩」と言ってください。すぐに休憩を取ります。[1時間を越えないように配慮する]
- もしも面接を途中でやめたくなったら、やめることもできます。
- もしも面接の途中でお母さん（お父さん、適切な大人）と相談したくなったら、そうすることもできます。そのときは、私は外で待っています。
- ○○さん、もしも話したくなければ話さなくても構いません。でも、何があったのか公平に理解したいので、できればあったことを、最初から最後まで、どんなことでも全部話してください。

【必要な場合：○○さんが話したことは、警察の人にお話しすることもあります。その場合、○○さんが話したことは、「○○さんにとって不利な証拠」（○○さんにとってマイナスの内容）として使われるかもしれません。でも、何があったか話してくれば、これからどうすればよいか、どうしたら○○さんも他の人も、安心して暮らせるか、よい方法を考えることができます。ですから、何かがあったならば、あったことを最初から最後まで、どんなことでも全部話してください。】

今まで（お）話したこと、わかりましたか（ご理解いただけましたか）。

[ 理解できていないようであれば、再度ゆっくり繰り返す。立会人の協力を得てもよい ]

お話できそうですか。

[ 「はい」ならば、次に進む。「いいえ」ならば14に進む。 ]

4. 約束事：お話を始める前にお願いがあります。（\*は練習課題）

①本当：本当のことだけを話すのがとても大切です。本当にあったことだけを話してください。

\*[必要に応じて]では、練習してみましょう。

\*本当でない：「私の靴は赤い」と言ったら、これは本当ですか、本当ではありませんか。（本当は黒）

\*[正しく「本当でない」「違う」と言ったならば]そうですね。私の靴は黒いので本当ではありませんね。

\*本当：では、〇〇さんが今、座っていると言ったら、これは本当ですか、本当ではありませんか。（本当に座っている）

\*[正しく「本当」「そう」などと言ったならば]そうですね。〇〇さんは座っているので本当ですね。

〇〇さんが本当のことと本当でないことの区別がよくわかっている、ということがわかりました。今日は、本当にあったことだけを話してください。

②わからない：もしも私の質問の意味がわからなかったら、「わからない」と言ってください。

③知らない：もしも私の質問の答えを知らなかったら、「知らない」と言ってください。

\*[必要に応じて]では練習してみましょう。

\*「私が飼っている犬の名前は何ですか」と聞いたら、〇〇さんは何と答えますか。

*[正しく「知らない」と言ったら]	*[「ボチ」等と推測を言ったら]
そうですね。 知らないときは、今のように「知らない」と言ってください。	〇〇さんは、私の家に来たことがないから、私の犬の名前は知らないでしょう。 知らない時は知らないと言ってください。

④間違い：もしも私が間違ったことを言ったら、「間違ってるよ」と言ってください。

\*[必要に応じて]では練習してみましょう。

\*私が〇〇さんは（異なる年齢、名前、等）ですねと言ったら、〇〇さんは何と言いますか。

\*[正しく「ううん」「間違ってる」などと言ったならば]そうですね。私が間違ったら、「間違ってる」と言うのがわかりましたね。私が間違ったら、今のように「間違ってる」（または「違ってる」など）と教えてください。

⑤その場にはいない：私はその場にはいなかったもので、何があったかわかりません。どんなことでも、あったことを全部話してください。

5. ラポール：〇〇さんのことをもっと知りたいので聞きますね。〇〇さんは何をするのが（お）好きですか。

[話してもらったならば] はい、よくわかりました。どうもありがとうございます（ございます）。このようにたくさん話してくれるとよくわかります。今のようにたくさんお話してください。

6. 出来事を思い出して話す練習：それでは前のことを思い出してお話する練習をしましょう。

今日あったことを話してください。今日、朝起きてからここに来るまでにあったことを最初から最後まで全部話してください。

[話してもらったならば] はい、よくわかりました。どうもありがとうございます（ございます）。このようにたくさん話してくれるとよくわかります。今のようにたくさんお話してください。

【本題】

7. 本題への移行：何があったか、どんなことでも、最初から最後まで全部、話してください。

[出てこなければ、次のように言う]

① \_\_\_\_\_（いつ）、／\_\_\_\_\_（場所）で、／\_\_\_\_\_（～のときに）／あったことを、どんなことでも、最初から最後まで全部話してください。

②（被害者）の\_\_\_\_\_（体の場所）にケガ（傷、あざ、跡等）があります（あると聞きました）。何があったか、どんなことでも、最初から最後まで全部話してください。

③（被害者）から（被疑事実の一部）のことを聞きました／〇〇さんが（被疑事実の一部）したのを見た、という人がいます。何があったか、どんなことでも、最初から最後まで全部話してください。

④ 〇〇さんは（被害事実の一部）をしたことはありますか。

《「はい」ならば》では、そのときのことを最初から最後まで、どんなことでも全部話してください。

《「いいえ」ならば》では、〇〇さんは（被疑事実があったとされるとき）どこにいましたか。[応答を得ても得られなくても]では、その日何があったか、最初から最後まで、どんなことでも全部話してください。



8. 出来事の分割《「～する」など意味記憶的に語られたときのみ》：そういうことがあったのは1回だけですか、それとも1回よりも多いですか。

〔「他にもあった」「いつも」「たくさん」などと言ったならば〕それでは一番よく覚えているとき（または、一番最初にあったとき、一番最後にあったとき）のことを話してください。

9. 自由報告：オープン質問

- ① 誘いかけ：何があったか全部話してください。
- ② 時間分割：A してから B までのことを、全部話してください。
- ③ 手がかり質問：さっき Aと saying いたけれど、そのことを（について）もっと話してください。
- ④ それから質問：それから？そして？あとは？
- ⑤ エコーイング：（被面接者の言葉を繰り返すのみ）
- ⑥ 返事：ふん、ふん

8. ブレイク

① たくさん話してくれて（くださり）、どうもありがとう（ございます）。これから、私がちゃんとお話を聞いているかどうか、別の部屋で見てくれる人に確認してきます。待っててもらっていいですか。

《面接者退室→観察室で相談→面接室に戻る》

② 待っていてくれて（くださり）、どうもありがとう（ございます）。それではあといくつか質問します。

10. 補充：オープン質問、WH質問・クローズド質問+オープン質問《応答はオープン質問で補う》

11. 確認：（誘導・暗示となる可能性があるため、必要な場合のみ面接の終盤で行う。応答はオープン質問で補う）

- ① 会話（脅し、脅迫、甘言、抵抗、同意等）：〇〇さんは何か言いましたか。（被害者）は何か言いましたか。
- ② 目撃者・被害者・加害者等：その場に他に誰かいましたか。
- ③ 開示：このことを知っている人は他に誰かいますか。／その人はどうしてこのことを知っていますか。
- ④ 矛盾へのチャレンジ1：〇〇さんは（被面接者の報告）と言いましたが、私は（矛盾する事実：証拠）と聞いています。そのため、よくわからなくなりました。そのときのことを、もう一度説明してください。
- ⑤ 矛盾へのチャレンジ2：〇〇さんは（矛盾する事実：証拠）しましたか。（「はい」／「いいえ」）そのときのことを、もう一度説明してください。
- ⑥ 話していないことへのチャレンジ2：（被害者）は〇〇さんが（被疑者が述べていない被疑事実の一部）したと言いました。〇〇さんは（被疑者が述べていない被疑事実の一部）しましたか。（「はい」ならば）そのときのことを、最初から最後まで、どんなことでも全部話してください。

【終結】

12. たくさんのことを話してくれました。助けてくれて（くださり）、どうもありがとう（ございます）。

- ① 経緯1：〇〇さんがどうしてそのようなことをするようになったか、話してください。。
- ② 経緯2：〇〇さんは、同じような事を、他の人にしましたか。
- ③ 経緯3：誰かが〇〇さんに、同じような事をしたことはありますか。
- ④ 知っておいたほうがよいこと：他に、私が知っておいたほうがよいことは、ありますか。
- ⑤ 話しておきたいこと：他に、〇〇さんが私に話しておきたいことは、ありますか。
- ⑥ 質問：〇〇さんからは、何か質問はありますか。
- ⑦ 連絡先：また何か話したくなったら、ここに連絡してください。

《被面接者が希望や質問を述べたならば「どうしてそう思いますか」「〇〇さんはどうなるとよいと思いますか」と意向を尋ねる。そして「私は一人で答える/決めることはできませんが、〇〇さんの考えを話してもらったので、それを考えにいて、一番よい方法を考えていきたいと思っています」などと述べる。》

《被面接者退出》

13. (配置図や身体図などがある場合は、電源を切る前に、カメラに示す)

今は\_\_時\_\_分です。これで面接を終わります。

14. [3の「お話できそうですか」が「いいえ」であれば、必要に応じて次のように言う]

- さっき言ったように、〇〇さんは、話さないこともできます。でも、これから大事なことを言いますから、よく聞いてください。もしも（暴力をふるう／ものを取る／性的なことを強いる等）という人がいたら、その人には助けが必要です。話してくれない人は、そのようなことを繰り返す、皆が安全に暮らせなくなることもあります。もしも〇〇さんが何かをしたのなら、どんなことでも全部、話してください。そして、何ができそうか、一緒に考えさせてください。いいですか？
- （被害者）は、〇〇さんのことを話しました。今度は、〇〇さんが話すチャンスです。どんなことでも、あったことを全部、話してください。
- これはとってとても大事なことですから、何分か考えてみてください。私に話すのではなく、紙に書いてもいいですよ。

[「わかりました」「話します」などと言ったならば、4.約束事に進む]

[被面接者が被疑事実につきすぐに話し始めたら「では、何があったか、最初から最後まで、どんなことでも全部、話してください。」と告げ、本題に進む]

[録画終了]

---

本手続きはHershkowitz, I., Horowitz, D., Lamb, M. E., Orbach, Y., & Sternberg, K. J. (2004). Interviewing youthful suspects in alleged sex crimes: a descriptive analysis. *Child Abuse & Neglect*, 28, 423-438.のAppendix, ならびにLamb, M. E., Orbach, Y., Hershkowitz, I., Esplin, P. W., & Horowitz, D. (2007) A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of investigative interviews with children: A review of research using the NICHD Investigative Interview Protocol. *Child Abuse and Neglect*, 31, 1201-1231., より作成したものである。にもとづいて作成したものである。